

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 27日

所属・職名	商経学部・教授	氏名	中村 晃
研究課題	自己愛に関する心理学的研究		
研究キーワード	自己愛	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>千葉商科大学の学生の性格傾向が1980年代から現在にかけてどのように変化したかを、YG性格検査を用いて検討した。その結果、1986年、2002年、2018年と最近になるにつれて一貫して、情緒が不安定になりやすい方向、および主導性や積極性が減少する方向に変化していることが確認された。自己愛の変化を見るうえで、このような青年の全体的な性格傾向の変化を検討することは、重要であると考えられる。この結果を千葉商大紀要に投稿している。</p> <p>また先行研究の分析の結果、egoismは自己に過剰に注意が向くことと関連するが、hypo-egotism(自分に対して注意や関心を向けなくなる心理現象)が心理的健全さにむすびつくことが示唆され、このhypo-egotismの概念に関して、整理した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等(海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>中村 晃 2020 大学生の性格における年代的变化 千葉商大紀要(印刷予定)</p> <p>2019年度は、学会には参加したが、発表は行っていない。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>研究のための書籍の購入</p> <p>4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等)</p> <p>特になし</p>			

(本文は1ページ以内にまとめること)